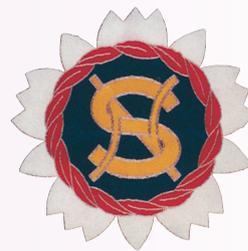


楓葉



独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
発行責任者 佐竹一枝

2020年12月 同窓会誌



会長挨拶



独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校

同窓会会長 佐竹 一枝

日頃より同窓会活動にご理解とご協力を頂きまして、心より感謝申し上げます。このたびの新型コロナウイルス感染拡大により、先の見えない自粛に不安の日々が続いております。皆様の中にも、仕事や健康など生活に影響を受けている方もおられると思います。一日も早く皆様の生活が元に戻りますよう心からお祈り致します。

医療の現場では、with コロナ対応の手順を探りながら安全な看護・医療の提供という重責を負っております。同窓会では、皆様の安全性を最優先に考え活動を自粛しております。2020年オリンピックイヤーの6月6日に、5年に一度の総会を母校において開催する予定でしたが、一同を会しての総会は誠に残念ながら中止せざるを得ませんでした。6月新役員を迎え、新旧役員による

書面での総会議案承認と致しました。5年振りに集い同窓の絆を深めるべく楽しみにしておられた皆様には心苦しい限りです。定例役員会も開けない状況が続き、オンラインと書面で会議を行っております。会誌発行の準備は滞り3密を考慮し、紙面での発行は中止しホームページ上での掲載と致しましたことを報告しなければなりません。

これまで役員会では、同窓会活動のあり方を検討し学校行事への参加や会誌発行作業などの機会に、学生及び会員相互の親睦を深める活動を行ってまいりました。コロナ禍において貴重な会員交流の場が失われている中、新たな同窓会活動の在り方が求められています。会員の情報をオンラインで交換や確認、縦横の繋がりを深める仕組みなど模索中です。皆様からの多彩なご意見をお待ちしております。

コロナ禍の中、様々な問い合わせに適切に対応していただきました学校職員の方々に感謝申し上げます。

役員一同、一日でも早くこの状況が終息することを願うと共に、元の平穏な生活を取り戻し、皆様にお会いできることを願っております。また、引き続き皆様のご協力、ご理解の程よろしくお願い致します。

学校長挨拶



独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
学校長 **鈴木 宏昌**

同窓生の皆様、本年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19 以下コロナ感染症）の影響で、心理的および体力的にも厳しい状況ですが、如何お過ごしでしょうか。

100年に一度の「医療者が命の危機を感じる感染症」です。医療者の基本である「(まず)自分・家族を守る」「(次に)患者を守る」「(可能なら)地域を守る」を考えた行動をお願いいたします。

さて、2月のダイヤモンドプリンセス号から始まった日本のコロナ感染症です。幸い看護師国家試験は無事行われ、当校の合格率は全国平均を上回る事が出来ました。これも副学校長の指揮のもと、学校スタッフ及び学生の「最後の努力（もがき！）」の成果です。来年度はぜひ全員合格を目指したいと考えています。

ただ学校行事は大きく影響を受けました。3月の卒業式はソーシャルディスタンス（社会的距離）を保つため参加者を制限（3年生と教員のみ）、全員マスク着用という異様な雰囲気での開催でした。ホテルでの謝恩会も中止という感染拡大が懸念される状況下での卒業式で、「思い出」より「記憶」に残った式となりました。

4月の入学式も同様の状況で開催しました。翌日に国の緊急事態宣言が発出、休校となったので、入学式だけでも出来て良かったと感じています。

その後本部主導の遠隔授業システムを使い、5月連休後から在宅授業を開始しました。また5月中旬から3年生の実習、月末より1、2年生の分散登校を行っています。私も既に4回、初の遠隔授業を行いました。空っぽの教室内でしゃべり続けるため、過換気症候群様症状になります（ボーとします）。遠隔授業は、医療者に最も必要とされる双方向性のコミュニケーションが欠けているので、早く対面授業を再開させたいと考えています。

コロナ感染症は今後の医療を変える可能性があります。これから数年「ウイズコロナ（コロナ感染症と共に）」が合言葉になりそうです。皆さんもご自愛いただくようお願いします。

(2020年7月記)



横浜医療センター発熱外来前にて（左：鈴木学校長、右：清水同窓会副会長）

副学校長挨拶

看護学校現況について

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
副学校長 **福田 優子**

新型コロナウイルス感染症による影響

新年度、始業式と入学許可の登校により、医療従事者の一員として自律した行動を意識付けした。以降自宅学習にし、電話による面接、郵送による課題で講義を進めた。同時に遠隔授業の導入の必要性を感じ、学生の要件を調査、ネット回線、データ無制限、ICT 機器の保有等の条件が揃っていた。Web 会議システムの選択は、90 分間対面に近いツールを選んだ。問題は学校側の乏しいネット環境で1クラス 80 名の授業を同時に 2 学年で行うことだった。4 月に 40 名のホームルームから開始した。講師陣も協力してくださり、1 日 3～4 コマを 3 週間遠隔授業で行うことが出来た。5 月末から学年ごと隔日登校をはじめ、6 月 16 日から初めて全学生が登校した。

また、教員の在宅勤務も試行し、無駄な通勤時間を省いて成果を上げる働き方も学んだ。

5 月末からの実習は自施設と他 1 つの病院、訪問看護ステーション、保育園に限られた。通常 6 時間の臨地での実習を「2 時間行ければ幸い」と考え、2・3 人の学生を 2 時間交替のシフトを組んだ。さらに新型コロナウイルスの影響で病院全体の患者数が減っていることもあり、受け持てる患者が少ない。小児看護学実習では受け持てる小児が 1 名という危機的状況になったため、教員の子ども数名が特別講師として演習に協力してくれた。

この 5 か月の経験は、自分の、或いは組織の古き価値を変え、「当たり前を疑う」ことを教えてくれた。そして置かれた状況下でその時々対象にとっての最善を考え、柔軟に対応する能力、まさに我々が臨床で培った力が役に立った。

多くの患者を受け入れながらも学校教育に積極的で寛大な学校長、柔軟性と創造性豊かな教員の力で第 1 波を乗り切ることが出来た。学生と保護者の協力にも感謝したい。次の感染症と勇敢に戦える看護師を育成するため、こうして目の前に学生が居ることに感謝しながら教壇に立ち続けていきたい。

(2020 年 7 月記)



フィジカルディスタンスを保って授業を受ける

2 回生

田代 佐代子

続けてきた看護の仕事

今年開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックは延期になってしまいました。前回 1964 年の東京オリンピックの時は看護学校 1 年生でした。寮の食堂でテレビを囲み皆で競技を観戦したことを懐かしく思い出しています。今から 56 年前のことです。寮は元病棟の古い木造の建物で、窓ガラスはガタガタと音がし、暗い浴室に深い浴槽、6～7 人一緒の畳敷きの広い部屋、今振り返れば楽しい思い出です。

私は卒業後、臨床看護や看護教育などの職場で働き、



現在は地元の役場で介護保険の仕事をしています。53 年間こんなに長く働き続けるとは若い時は考えもしませんでした。

長い職業生活で、20 代終わりから 30 代半ば頃が一番悩みや迷いが多かったように思います。自信を失くし、一時看護の仕事を離れもしました。ある講師の「悩む人には結果は出ない、考える人に結果が出る」の言葉が心に響き、仕事に行き詰った時はその言葉に戻り助けられました。悩み迷うこと、年を重ねること、悪いことではないなと云うのが、今の実感です。

いつも支えてくれた友人達に感謝しながら、心身ともに元気な今、もう少し仕事を続ける予定です。

12 回生

堀 繁子

懐かしき学生時代

私達 12 回生は希望に胸ふくらませ、昭和 49 年春 学生生活をスタートしました。北は青森南は熊本まで地方出身者が大半を占め、学生寮も方言での会話はまるで外国の言葉のようで、解説をしてもらい納得ということもありました。厳粛な戴帽式を終え実習デビューです。私は



看護計画作成が苦手でした。いつも提出ぎりぎりまで悩んでいました。小児科実習では、立派な看護師になってくださいと励まされたことも嬉しい思い出です。体育で水泳の授業が有ったり、英語の他にドイツ語の授業が数時間あり、担当の内科 Dr. が楽しそうに学校に講師として出向いていくことを病棟師長より伺いました。いかに学生に魅力ある授業をしてくれる講師発掘に力を注いだかを、後に教官の苦勞を知ることになり、今更ですが深く感謝いたします。学園祭では杜子春の寸劇を披露し、演出や台本作りに才能を發揮した人、熱演をしたメンバーには今でも拍手喝采です。

温泉旅行に一泊した卒業旅行では、女性の団体でこんなにお酒を飲んだのは初めてですと言われた武勇伝も懐かしいです。私達も還暦を過ぎた頃からは、クラス会での酒量は徐々に減り、近況報告やおしゃべりで楽しく交流しています。これからも健康に留意し、それぞれの持ち味を生かして輝き続ける 12 回生で有りたいと思います。

22 回生

菅原 智香

受験の時『横浜にある病院は、オーシャンビューに違いない!』と妄想をし、実際は、内陸に進んで行くバスの窓から、富士山や畑が見え、ビックリしたことを覚えています。

勉強や、実習は、大変でしたが、充実した日々を送ることができた 3 年間でした。22 回生は、仲が良く、定期的にクラス会を行っています。

私は、37 歳の時、『脳幹腫瘍小脳転移』を患い、余命宣告も受けました。『来週は、生きていくかわからない。』と、追い詰められた精神状態になりましたが、22 回生の皆が仙台まで来てくれて、応援の温かい気持ちをくれたことが

きっかけで私は、生きることに前向きになり、精神的にも回復していきました。皆と会うと『これができるようになったね!』と一緒に喜んでくれるのがモチベーションになり、できることを増やそうと日常生活の中にリハビリを取り入れています。学生時代の 3 年間は、知識と技術を得た他に一生の友も得られた、貴重な時間でした。

本当に、有難う 22 回生のみんな!

▶左が菅原智香さん、
右が亘智絵さん



32 回生

小林 美紀 (旧姓：仁藤)

現在、厚木市内の病院で勤務しています。病棟勤務が長かったのですが、3年前から外来勤務で、毎週担当の科が変わることに苦労しています。

学生時代で思い出深いのは寮生活です。上下関係がしっかりしていて、先輩がいろいろと指導してくれ、社会性が身に付きました。その印象が強かったせいでしょうか、一緒に職場になってドキドキしましたが、「ああ、ふつうの人なんだ」とホッとしたことは内緒です。寮生活では、なにか催し物があるたびに、スタンツという芸をする場がありました。あれがあったおかげで、人前で何かすることの度胸がつけました。

卒業後の同窓会は1回しかありませんでした。しかし

卒業22年後の昨年に半数ほどの同窓生がLINEでつながり、ミニミニ同窓会を開くことができました。仲間は総合病院看護師、クリニックの看護師、保健師、訪問看護師、介護施設の看護師、主婦で母となっている人など様々ですが、みな充実しているようです。ずいぶん時が経ちましたが、顔を合わせると学生時代にタイムスリップしたようで、思い出話に花を咲かせました。



42 回生

村上 裕之

42回生として看護学校を卒業し、14年が経ちました。国立横浜病院時代に、消化器外科・呼吸器外科病棟に配属され、入職してからは、慣れない現場で同期や卒業生の先輩方に励ましをもらいながら、現在まで看護職を続けることができました。

現在も横浜医療センターに在籍しており、今年の3月より脳神経外科・神経内科病棟に配属され、ま

た新たな気持ちで働き始めています。

お世話になった方々のためにも、これからも医療・看護に少しでも貢献していけるよう、努力していきたいと思います。



52 回生

宮内 裕香

横浜医療センターに入職し4年が経ちました。

入職当初から小児科病棟に配属され、1年生の頃は毎日が緊張の連続で何をしても空回りし続けられるか



▲中央：宮内裕香さん 同期仲よし3人組

不安でしたが、あっという間に4年目となり今はプリセプターやリーダー業務を経験しています。

横浜医療センターには一般小児病棟の他にNICU、GCUがあり、新生児看護について学んだり外来で継続看護の大切さを学ぶ機会が増えて毎日とても充実しています。

職場の雰囲気もよく、先輩や後輩はもちろん同期にも恵まれました。私の中で同期の存在は大きく、入職時から定期的に食事に行ったり遊びに行ったりして辛いことも一緒に乗り越えてきました。これからも支え合いながら頑張っていきたいです。

同窓会役員より切なるお願い

以前より取り上げられておりましたが、役員推薦委員会を立ち上げても役員になってくださる方はなく、役員任期が過ぎても後任役員が見つからない状態が続いています。このままだと、同窓会が存続できない可能性が出てきました。

神奈川県で唯一残った国立病院機構の我が校です。同窓会の灯を絶やさないために会員の皆様、是非ともご協力をお願い致します。



令和2年度 役員

会長	佐竹 一枝 (20回生)	書記	甲田 まゆみ (25回生)	会計監査	濱 法子 (14回生)
副会長	江田 留美子 (22回生)		元田 聡美 (47回生)		川口 妙子 (16回生)
	清水 敦子 (29回生)	会計	佐々木 博之 (39回生)		
			村上 佑子 (47回生 新役員)		

令和2年度 幹事

1回生	井坂 洋子	21回生	加藤 佳代子	40回生	斉藤 彩	47回生	村上 佑子
2回生	奥村 典子	22回生	江口 裕子	41回生	川上 泰史	48回生	新沼 美穂
3回生	地蔵 ティ子	23回生	伊原 真奈美	41回生	霜鳥 耕輔	48回生	平田 彩佳
4回生	神代 アキエ	24回生	崎山 和美	42回生	岩竹 絵美	49回生	角 俊一郎
5回生	深石 みつ子	25回生	甲田 まゆみ	42回生	佐藤 広太	49回生	佐藤 太一
6回生	井上 ふさ子	26回生	長尾 久栄	43回生	平沙 敬悟	49回生	久永 栞
7回生	稲垣 文子	27回生	富浦 裕	43回生	三澤 宏美	49回生	平山 光子
8回生	浅野 恵美子	28回生	木内 由起子	44回生	佐藤 春加	50回生	中村 智早
8回生	渡部 俊子	29回生	清水 敦子	44回生	田村 佳世子	51回生	三宅 徹
9回生	寺澤 秀代	30回生	小堺 史恵	45回生	勝間田 昌寛	52回生	出野 光穂
10回生	米澤 繁子	30回生	中野 理恵	45回生	寺内 舞	52回生	玉井 沙英
11回生	小泉 由美子	31回生	松岡 泰子	45回生	樋渡 彩子	53回生	北郷 綾乃
12回生	大幡 洋子	32回生	小林 里美	46回生	荒木 大地	53回生	切替 彩夏
13回生	市川 美紀子	33回生	川辺 美里	46回生	伊藤 紗緒里	53回生	水田 更紗
14回生	濱 法子	33回生	宮崎 美樹	46回生	小山田 真美	53回生	森田 志帆
15回生	関戸 富子	34回生	巨瀬 里美	46回生	坂本 健太郎	54回生	川野 眞子
16回生	川口 妙子	35回生	伊藤 直子	46回生	田尻 高基	54回生	小助川 有加
17回生	杉山 トミ子	36回生	坂口 佳織	46回生	中曾根 未央	54回生	夏川 知聖
18回生	村松 真佐子	37回生	池江 真彦	46回生	藤川 仁子	54回生	西山 侑希
19回生	鈴木 雪子	38回生	成田 真代	46回生	森 麻美	55回生	河東田 侑花
20回生	佐竹 一枝	39回生	佐々木 博之	47回生	早川 敦子	55回生	堤 晴子

《幹事の役割》

- 自分のクラスメートの住所把握：
変更時や不明者の住所判明時は、役員に連絡。
- 幹事会への出席：年1回（6月第1土曜日）。
やむを得ず欠席の場合は、責任を持って代理出席者を立てる。
- 同窓会事業への参加：
幹事交代時は、次期幹事を責任を持ち決定し、役員に知らせる。

同窓会の主な活動

- ＊ 毎月役員会（第1土曜日）
- ＊ 同窓会説明会
- ＊ 同窓会会誌「楓葉」発行・準備
- ＊ 学校の各行事へ出席
- ＊ 楓葉祭へ参加

住所変更届けのお願い

改姓・住所変更等ありましたら同窓会本部まで、メールまたはFAX、郵送にてお知らせ下さい。

<記載内容>

回生、氏名、変更内容（旧〇〇、新〇〇）、連絡先
よろしく願い致します。

同窓会本部

〒245-0063 横浜市戸塚区原宿3丁目60番2号

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センター附属横浜看護学校内

TEL.045-853-8322 (学校直通) FAX. 045-853-8348

E-mail. setumeikai@yokohama-ns.ecweb.jp

(※件名に「同窓会へ」と入力して下さい)

編集後記

4月下旬、親睦会中止の電話連絡の際、何人かの同窓生より「コロナと闘っておられる同窓生の皆様に、くれぐれもお体に気をつけて頑張ってくださいとお伝えください。」とお言葉をいただきました。回生を超えた同窓生の繋がりを感じ、とても温かな気持ちになりました。まだまだ先の見えない緊張の日々が続きますが、コロナの終息の日を思い皆様の健康を願うとともに、笑顔で再会できる日が一日でも早く訪れますことを祈るばかりです。尚、今回は発送作業の都合上、ホームページ掲載のみになりますことと、次号の会誌発行も未定であることをご理解ください。 書記 25回生 甲田 まゆみ